来月のテーマ 市有地の跡地利用を考える

市民談話室

□子どもへの期待過剰をやめる
□兄弟を比較するな
□しかり方に気をつけろ
□子どもの適性を早く見抜け

と、ありました。

心に留めておきたい内容だと思いますが、なかなか難しい問題です。他人ごとではないこの問題を、みなさんはどうお考えですか。

私の意見

部活動など熱心に打ち込めるものを

渡辺ハルエさん
（庄瀬・主婦・37歳）

少年の非行化が社会問題化されている中で、新潟県の科学研究の水準が高く評価され、受賞を喜ぶ写真が載っていました。これも長い間の先生と生徒の信頼と努力の結果だったろうと、胸が熱くなるのを感じました。

心身の一番の成長期に受験に追われ、その反抗として現われたのが、中高校生の非行だと思います。授業と関連した部活動など、自分で本当に打ち込める何かを見つけ出し、ゆとりのある毎日こそ、真の教育だと思います。

そして私たち父母も、教育熱心のあまり、やたらと学校教育に首をつっこみ、それがかえって子どもを甘くしている場合もあるようです。お互いに人格を尊重し、持ち場を守り、しつけていきたいものと思います。

有害環境の除去と家庭教育を大切に

小林三千夫さん
（新飯田・農業・43歳）

青少年非行は年々増加し、特に最近の非行は、年少化してきており、その要因には社会環境のおよぼす影響に加え、家庭教育にも大きな要因があります。

学校から帰るやいなや、すぐに塾とか、進学のための勉強と強いる親の考え方に問題があろうかと思われます。確かに時代は変わり、進学率が一〇〇％近い今日では、高校くらい出してあげたいと思う親の気持はよくわかります。それがために、子どもたちはどんなに苦しみ悩んでいるかわかりません。

親として努めたいことは、もっと違う角度から励まし、力になってやることだと思います。健康でたくましく、学習に運動に一生懸命がんばるという、気力に満ちた子どもに育てるには楽しく遊ばせることも必要だと思います。遊びの中から友だち同志でいろいろなことを学んでいます。

社会の発達とともに、子どもたちの周囲に有害環境が増してきています。そのような有害環境を除去し、守ってやることが私たち父母に与えられた使命だと思います。

相互の連携を密に若い芽を健やかに

吉田康偉さん
（西笠巻・農業・41歳）

青少年非行は、それぞれの時代の中で何度かの大きな変化をとげてきました。最初の増加期は、戦後の混乱期の貧しさゆえの非行、二度目は高度経済成長期の繁栄の中の非行、そして現在は不安の時代の中での非行といわれています。

投稿ください　みなさんの意見交換の場がこの市民談話室です。来月のテーマは、「市有地の跡地利用を考える」です。小林さんの提案について、気軽に意見をお寄せください。また新しいテーマと意見を提案していただいてもけっこうです。薄謝をさしあげます。ページの都合で、文を短くすることがあります。あて先は、大字白根一二三五　白根市役所企画財政課広報広聴係。二月十六日までに郵便ポストへ。

来月の提案者

市有地の跡地利用を考える

小林キミイさん
（諏訪木・主婦・54歳）

新しい諏訪木保育園が、この春の開園をめざして、建設が進められ、力強い機械の音を聞きながら、孫と一緒にその日を待ちわびている一人です。

気になりますのは、現在の諏訪木保育園の跡地利用のことです。どのような計画をお持ちでしょうか。駐車場になるという話も聞きますが、できれば地域の集会場として活用させてもらいたいと思っております。

そこで、聞くところによりますと、この保育園のほかにも、茨曽根、大郷、鷲巻、小林、戸頭の各小学校も、統合や改築でいずれは廃校となるそうです。それら市有地の跡地利用は、地域の関心事だと思います。

それぞれ地域の一等地に広大な敷地を有する跡地利用は、市民から広く希望を聞くなどして有効的に活用してほしいものです。みなさんは、これら市有地の跡地利用についてどのようにお考えですか。

今月のテーマ 最近の少年非行に思う

今月の提案者

吉田澄子さん
（古川宮前町・主婦・43歳）

最近、新聞紙上に「たばこ注意され放火」「両親をバットで殴殺」「女教師に上下座を強要」など、中学生や高校生の暴力行為が、毎日のように報道されています。同じ年ごろの息子を持つ親として、深く考えさせられます。

一つの関門に高校、大学入試があります。高望みしなければそれなりの進学はできると思いますが、学歴優先社会であれば親子間でいざこざが起きるのも当然かも知れません。そのひずみが、高校生から中学生全体にまでおよんできたとすれば、これは大きな社会問題です。

簡単にケリのつく問題ではないと思いますが、せめて親が賢くならなければならないと思います。新聞記事の中で、

毎日、新聞紙上をにぎわす中学生や高校生の暴力行為の記事

私たちは現在、物質に恵まれ豊かで便利な生活を送っているように見えます。しかし現実は公害、自然破壊、そして連帯意識の欠如という好ましくない問題に直面しています。

社会の変容にともない、多くのひずみが生じ、青少年に大きな影響を及ぼしています。連日新聞やテレビでショッキングな事件が報道され、年ごろの子をもつ親として、真剣に考えてみなければなりません。

子どもを育て、教育していくことは難しいものです。親たちが一人ひとりわが子を見つめ、お互いに家庭、地域、学校と手をとり合い、積極的に健やかな芽を、思う存分にのばしていきたいものと心から思っています。

わが子や地域の子らに温かい一言を

滝沢忠一さん
（白根第一中学校教諭・45歳）

非行化の赤ランプは服装の華美、乱れからと、いわれます。

学生服を買い求めるとき、子どもにお金を与え、自由にまかせると、そのほとんどが変型の上衣、ズボン（学校指定は標準型）を求めるとのことです。お互いに忙しい毎日でも、やはり親がわが子の成長に驚き、喜びながら買い与えてやる愛情が大切だと思います。

また子どもたちの生活のあり方は、友達に影響されることが大変に大きいと思われます。よい友人関係を育てていきたいものです。自分の子どもはもちろん、他人の子どもであっても、悪いことをしているとわかったときには、決然とした態度で注意し、しかることのできる親でありたいと思います。そして、そうしたことを互いに素直に認めあう地域であってほしいと思います。彼らはそれぞれの家庭の子どもであると同時に、あすの地域社会を担う大切な地域の子どもでもあるからです。

子どもたちの健全育成をめざし、家庭と地域そして学校が理解し合い、協力していかねばならないと思っております。

何でも話し合える明るい家庭に

山田昇栄さん
（市青少年問題協議会事務主管課・45歳）

次代を担う青少年の健全育成は、市民共通の願いです。当市では、青少年問題協議会を中心に、健全育成のための対策と事業に取りくんでいます。

非行の原因を意識調査で見ると、青少年は「家庭」に問題があると回答している率が高く、「何でも話し合える明るい家庭」を望む率も高くなっています。

確かに「社会環境」や「教育」への要望も上位を占めるものの、何をいっても家庭が基盤であり、「優しく、そして厳しい親」であるとともに、「学歴よりも人生を大切にする」しつけ教育が必要と思います。

学校では、先生と児童生徒、児童生徒同志の人間的ふれ合いを通して、親和感、信頼感、連帯感を深めるように指導に努めてもらう必要があります。

地域社会では「人の子も自分の子」という考えで、注意を与え、ほめてやる、また地域の催し物、行事には積極的に参加を呼びかけ、汗を流し、活動を理解させることが大切です。

他人ごとではないこの深刻な問題を市民一人ひとりが関心をもち、青少年を非行の道から遠ざけていきたいものです。

あの日あのとき

魔の雪襲い陸の孤島に

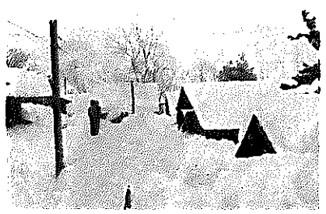
昭和38年の豪雪

昭和38年1月23日以来降り続いた雪が、新飯田地区では4.40㍍という記録的な豪雪となり、白根市内は完全に『白い壁』にとざされてしまいました。

交通は全線マヒ状態におちいり、すべての産業はストップし、家屋の倒壊205戸、重軽傷者18人、被害総額は市の年間予算のおよそ倍の4億6千万円に及ぶ豪雪でした。

特に新飯田地区の被害が大きく、電線をまたいで通行したとか、雪おろしならぬ屋根の雪掘りに汗だくの毎日だったそうです。

当時はまだ除雪車などの機動力は乏しく、市民の献身的な除雪の協力を待つほかありませんでした。



屋根までスッポリ雪の中

雪で埋まった中の口川

上の写真は私の家の前の写真ですが、2階まで雪が積もり、円通庵はすっぽりと埋まってしまいました。

路地まで除雪車が入る時代ではなく、家からは雪の階段をつけて登り、電線をまたいで歩くほどでした。新飯田はブドウの産地。ブドウ棚は雪の重みで全滅だったそうです。

【私の思い出】
小林藤作さん
（新飯田下町）